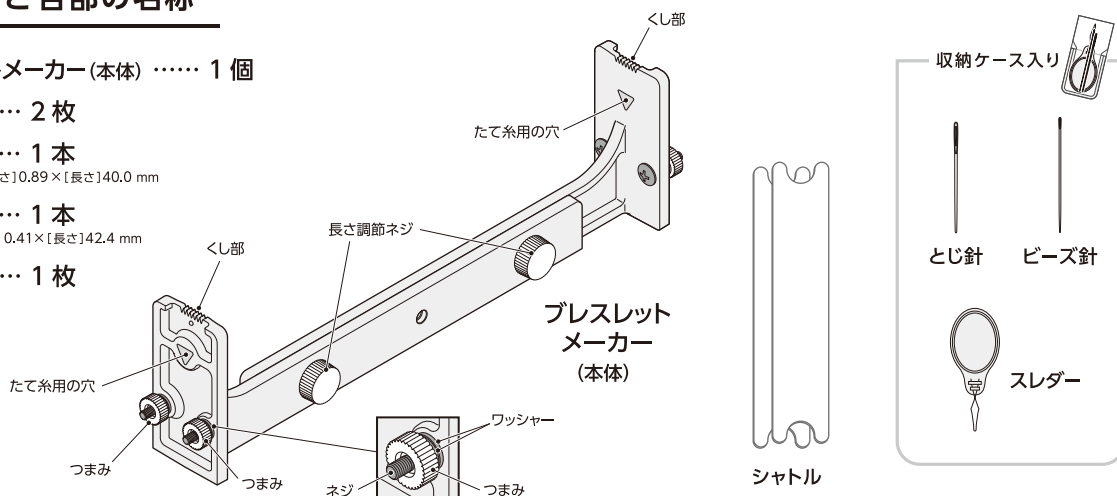


## セット内容と各部の名称

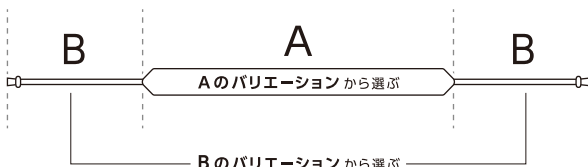
- ・ブレスレットメーカー (本体) …… 1 個
- ・シャトル …… 2 枚
- ・とじ針 …… 1 本  
とじ針 (No.20): [太さ] 0.89 × [長さ] 140.0 mm
- ・ビーズ針 …… 1 本  
ビーズ針 (短): [太さ] 0.41 × [長さ] 142.4 mm
- ・スレダー …… 1 枚



## ▶ 作り始める前に…

ブレスレットメーカーを使って作れるブレスレットは、下の図のようになります。

本体にたて糸を張り、別糸を結んだり織ったりして A の部分を作った後、本体から取り外して B の部分を作ります。(A の部分が、ブレスレットのメインになります。)



この説明書では、  
A のバリエーションとして、“結び”・“織り”・“ラダーワーク”の技法から 8 種類、B のバリエーションとして、3 種類の技法を紹介しています。(参照 ⑤ 使い方説明書-2)

A の部分を作る時、結びの技法と、織り・ラダーワークの技法では、たて糸の張り方が異なります。

- ◆ 結び …… たて糸用の穴にたて糸を通して張ります。
- ◆ 織り・ラダーワーク …… くし部にたて糸をかけて張ります。

(詳しくは **A の部分の作り方** をご覧ください。)

## ブレスレットの長さについて

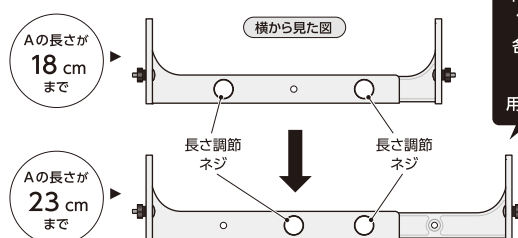
- A の長さは、手首周りの長さ + 1.5 cm が使いやすい長さの基準です。お好みで調整してください。

手首周りの長さ		A の長さの目安
cm	+ 1.5 cm =	cm

(手首周りの長さが 14 cm の場合、A の長さは 15.5 cm が目安になります。)

- B の長さは、両端それぞれ 5~8 cm ぐらいに仕上げると使いやすいです。(B の部分は、A の部分を作った後に残ったたて糸で作ります。出来上がる長さは、技法や糸の種類・本数、結び具合によって変わります。)

本体を出荷時のままの状態で使用すると、  
A の部分は、最長で 約 18 cm、長さ調節ネジをとめ直して  
本体を長くすると 約 23 cm まで作れます。  
(本体の長さによって、たて糸の長さが変わります。)



本体を長くして作る場合は、各 たて糸 を 5 cm 長く用意しましょう。

## 用意するもの

- ・糸 (たて糸用、結び糸または織り糸用) ・メジャー ・定規 ・はさみ ・セロハンテープ (または マスキングテープ)

**適した素材:** 刺しゅう糸 25 番、刺しゅう糸 5 番、レース糸、並太毛糸など、伸びにくく切れにくい糸。  
(繊細な作品を作りたい場合は、ミシン糸や手縫い糸なども使えます。)

刺しゅう糸 25 番  
がオススメ!

## お好みで、ビーズなどを入れても!

- ・ビーズを使う場合 …… ビーズ、ミシン糸 (ビーズを糸に通す時に使います)
- ・ラダーワークで作る場合 …… ビーズ、ビーズステッチ用のナイロン糸

## ▶ それでは、ブレスレットを作っていきましょう。

Aの部分を作ってから、Bの部分を作ります。Aの部分の作り方は、[結び]の場合と[織り・ラダーワーク]の場合の2種類があります。好みの技法を選んで作りましょう。

### Aの部分の作り方 結びの場合 (例) タッチング結び

#### 用意する糸 〈タッチング結び(Aの長さ:15.5 cm)の場合〉

##### たて糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
約 50 cm × 2本

※ たて糸 1本あたりの長さは、どの結びの技法の場合でも同じです。

細く  
仕上げたい  
場合は1本  
でもOK!

##### 結び糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
2 m × 1本

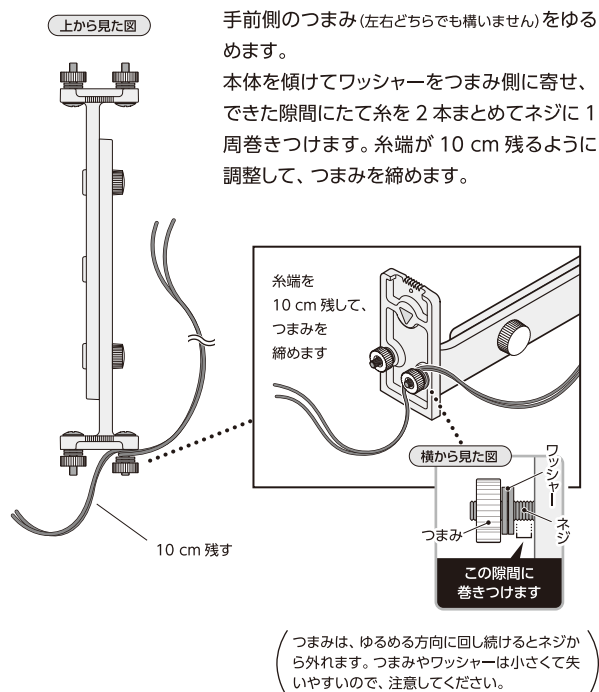
※ 必要な結び糸の長さは、Aの長さ、糸の種類や本数、使う技法や結び具合によって変わります。

■ ここでは、出荷時のままの長さの本体で、Aの長さが 15.5 cm のブレスレットを刺しゅう糸 25番 (6本取) を使って“タッチング結び”の技法で作る方法を説明しています。

■ 作りたい作品に合わせて、ブレスレットの長さ、糸の種類や本数、技法を自由に変えてください。

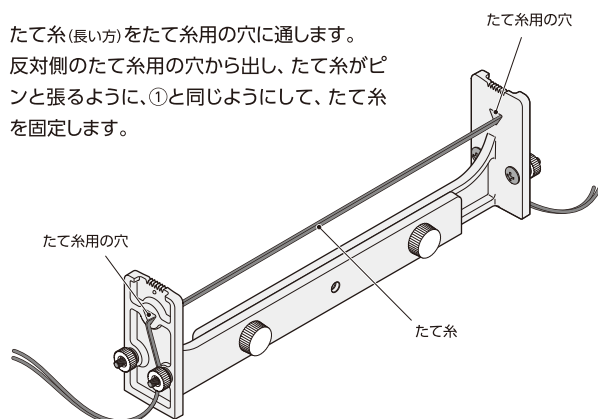
■ 他の結びの技法を使う場合は、タッチング結びの部分をお好みの技法に変えて作りましょう。

#### ① つまみでたて糸を固定します。



#### ② たて糸を張ります。

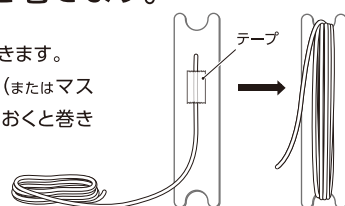
たて糸(長い方)をたて糸用の穴に通します。反対側のたて糸用の穴から出し、たて糸がピンと張るように、①と同じようにして、たて糸を固定します。



#### ③ シャトルに糸を巻きます。

シャトルに、結び糸を巻きます。

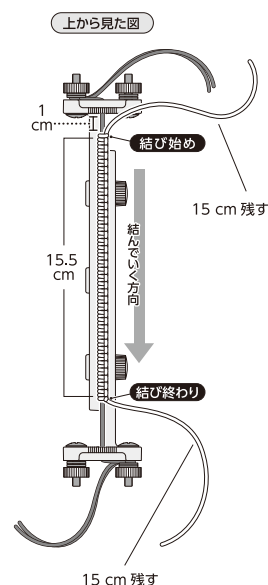
糸端をセロハンテープ(またはマスキングテープ)でとめておくとう巻きやすいです。



#### ④ Aの部分を結んでいきます。

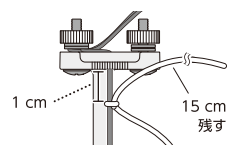
結び糸を、たて糸に結んでAの部分を作ります。Aの部分は向こう側から手前側に結んでいきます。

- 結び始めは、結び糸の糸端を15 cm 残して、たて糸の本体の端から1 cm ほどの所に結びつけます。
- 糸を結びつけたら、タッチング結びをしていきます。(結び方は、別紙〔タッチング結び〕をご覧ください。) 結んだ部分が15.5 cm (最初に決めたAの長さ分) になるまで結びます。シャトルが通しにくくなったら、シャトルから糸を外して、糸だけで結びましょう。
- 結び終わりは、糸端を15 cm 残して結び糸をカットし、たて糸に結びつけると、Aの部分のできあがりです。



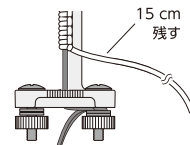
##### ● 結び始め

糸端を15 cm 残して、たて糸に結びつけます。本体の端から1 cm の所に結びつけます。



##### ● 結び終わり

必要な長さまで結び終わったら、糸端を15 cm 残してカットし、たて糸に結びつけます。



## A の部分の作り方

## 織り・ラダーワークの場合 (例) 織り-たて糸5本

### 用意する糸 (織り-たて糸5本 (Aの長さ:15.5cm) の場合)

#### たて糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
約 55 cm × 5 本

※ たて糸 1 本あたりの長さは、織りの場合でも、ラダーワークの場合でも同じです。

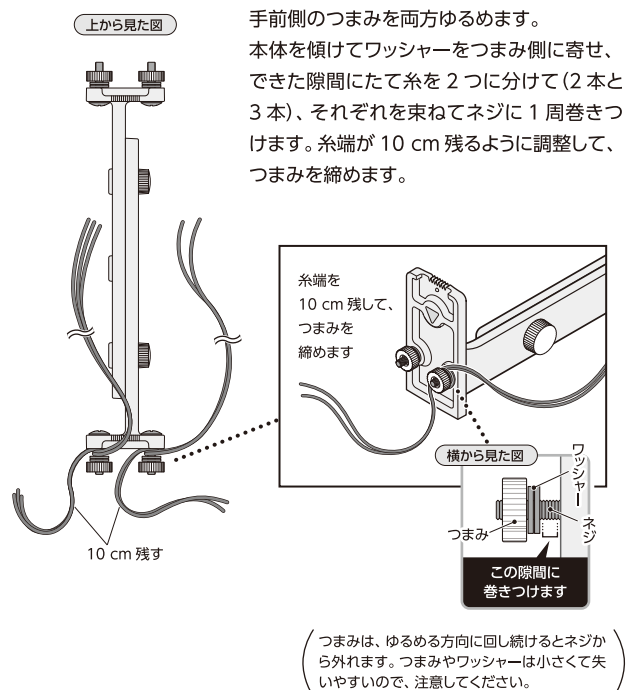
#### 織り糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
3 m × 1 本

※ 必要な織り糸の長さは、A の長さ、糸の種類や本数、織り具合によって変わります。

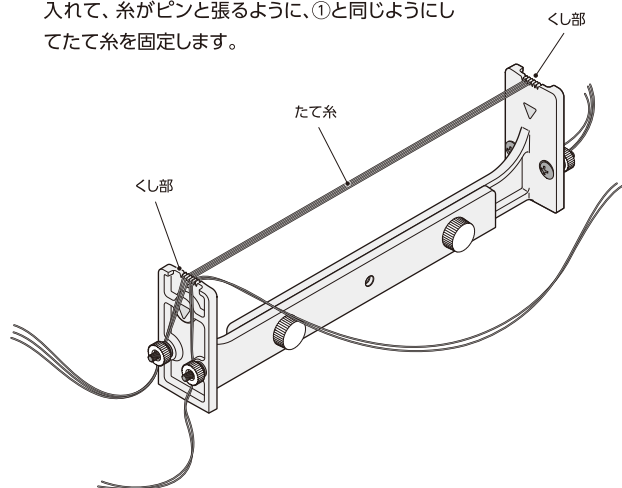
- ここでは、出荷時のままの長さの本体で、A の長さが 15.5 cm のプレスレットを刺しゅう糸 25 番 (6 本取) を使って“織り-たて糸 5 本”の技法で作る方法を説明しています。
- 作りたい作品に合わせて、プレスレットの長さ、糸の種類や本数、技法を自由に変えてください。
- ラダーワークの場合は、2 本のたて糸とナイロン糸とビーズを用意します。(参照 2 使い方説明書-2/裏面/ラダーワーク)

### ① つまみでたて糸を固定します。



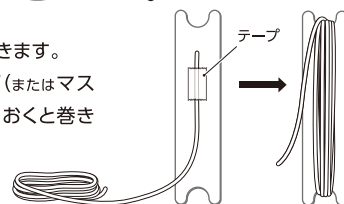
### ② たて糸を張ります。

たて糸(長い方)を手前側のくし部の溝に 1 本ずつ入れます。糸が重なったり、ねじれたりしないように気をつけて、反対側のくし部の溝にも 1 本ずつ入れて、糸がピンと張るように、①と同じようにしてたて糸を固定します。



### ③ シャトルに糸を巻きます。

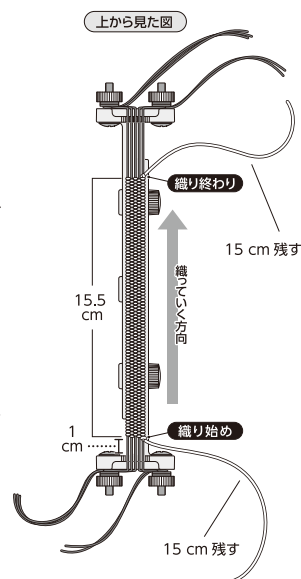
シャトルに、織り糸を巻きます。糸端をセロハンテープ (またはマスキングテープ) でとめておくと巻きやすいです。



### ④ A の部分を織っていきます。

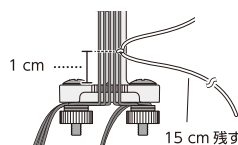
織り糸をたて糸に通し、A の部分を織っていきます。A の部分は、手前側から向こう側に織っていきます。

- 織り始めは、織り糸の糸端を 15 cm 残して、一番右のたて糸の本体の端から 1 cm ほどの所に結びつけます。
- 糸を結びつけたら、織っていきます。(織り方は、別紙「織り」をご覧ください。) 織った部分が 15.5 cm (最初に決めたAの長さ分) になるまで織ります。シャトルが通しにくくなったら、シャトルから糸を外し、とじ針を使って通します。
- 織り終わりは、糸端を 15 cm 残して織り糸をカットし、一番端のたて糸に結びつけると、A の部分のできあがりです。



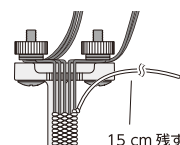
#### ● 織り始め

糸端を 15 cm 残して、たて糸に結びつけます。本体の端から 1 cm の所に結びつけます。



#### ● 織り終わり

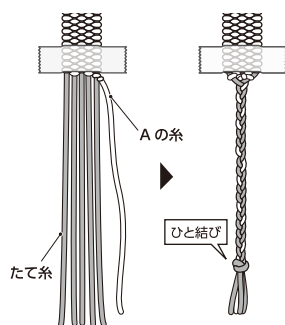
必要な長さまで織り終わったら、糸端を 15 cm 残してカットし、たて糸に結びつけます。



## B の部分の作り方

本体からブレスレットを取り外して作業します。

- ① 本体からブレスレットを取り外して、A の部分の端をセロハンテープ（またはマスキングテープ）で机などに貼り付けて固定します。（A の糸端はテープの下に出し、たて糸と一緒に B の部分として仕上げます。）
- ② 別紙の [ B のバリエーション ] に従って、B の部分を作ります。必要な長さになるまで作れたら、B の端をひと結びします。
- ③ 反対側も同様にして、できあがり。



## できあがり



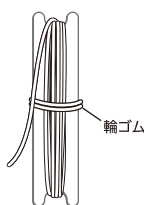
たて糸のみで B の部分を作りたい場合は、A の糸端を A の部分に通して糸始末をしてください。  
（参照 ④ POINT - 糸始末の方法）

途中で糸を変えた場合は、最後に糸始末をしてください。  
（参照 ④ POINT - 糸始末の方法）

## POINT

### ● シャトルの糸が外れてくるとき

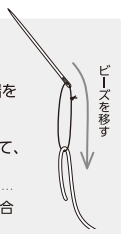
作業中にシャトルの糸が外れてくるのが気になる場合は、輪ゴムでとめて作業してください。  
糸を出したい時は、一度輪ゴムを外して、糸を出してください。



### ● 糸にビーズやパーツを入れる場合は、あらかじめ糸にビーズなどを通しておきます。

#### 刺しゅう糸などへのビーズの通し方

- ① ビーズ針にミシン糸を通し、ミシン糸が輪になるように端を結びます。
  - ② ミシン糸の輪に刺しゅう糸を通したら、針でビーズを拾って、刺しゅう糸の所までビーズを移していきます。
- ※ ビーズの内径に対して糸の太さがギリギリで通しにくい場合は、一気に通さず 1 個ずつゆっくり通しましょう。



#### 結び糸・織り糸に入れるとき

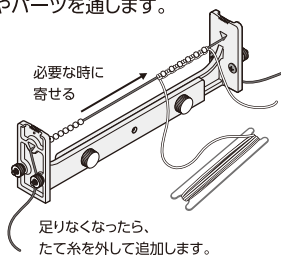
★ ラダーワーク以外の技法で使えます

あらかじめ、結び糸や織り糸にビーズやパーツを通して、A の部分を作りながら、必要なところでビーズをたぐり寄せます。

#### たて糸に入れるとき

★ 織り・ラダーワーク以外の技法で使えます

- ・ たて糸を張る前に、ビーズやパーツを通します。
- ・ 必要なところでビーズをたぐり寄せて結びます。
- ・ ビーズが足りなくなったら、手前側のつまみをゆるめてたて糸を外し、ビーズを追加します。

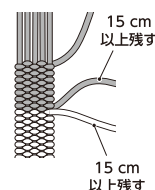


★ 刺しゅう糸 25 番 (6 本取) の場合、丸大ビーズには 2 本、丸小ビーズには 1 本が、通せる最大の目安です。

### ● 糸の変え方

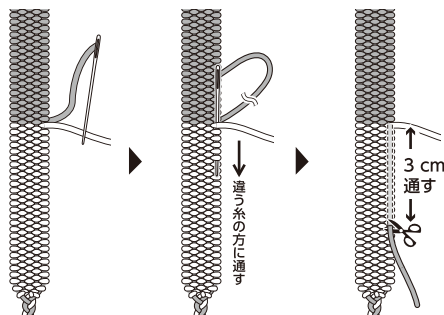
途中で糸がなくなったり、糸を変えたいときに。

前の糸の糸端が 15 cm 以上残るようにし、次の糸端を 15 cm 以上残して始めます。糸端は、結ばずそのままにしておき、最後にまとめて糸始末をします。  
（下の [ 糸始末の方法 ] 参照）



### ● 糸始末の方法

途中で糸を変えた場合は、とじ針で糸端を始末します。



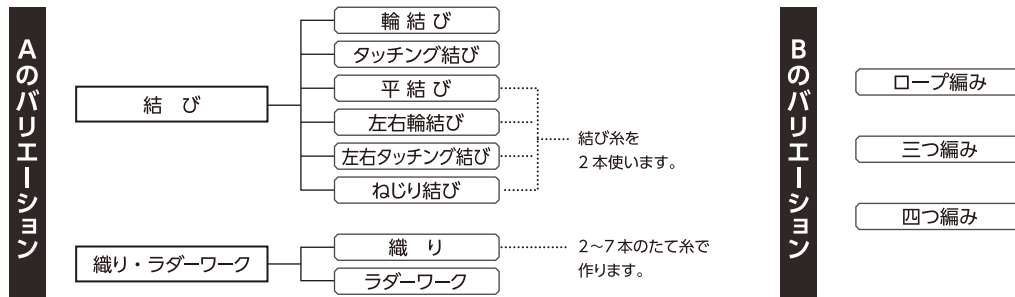
とじ針に糸端を通し、A の部分の中に、たて糸に沿わせるようにして差し込んで隠します。何度か繰り返して 3 cm 以上通せたら、糸を切ります。

#### 注意

付属のスライダーでとじ針に刺しゅう糸を通そうとすると、スライダー破損の原因になります。



この説明書では、ブレスレットメーカーでブレスレットを作るのに使える、いろいろな技法を説明しています。  
お好みの技法でブレスレットを作りましょう。



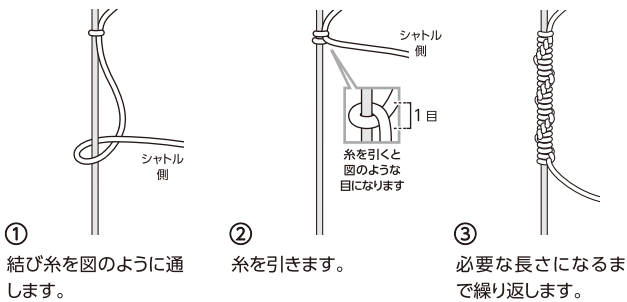
## Aのバリエーション 結び

### 輪 結 び

(結び糸：1本)

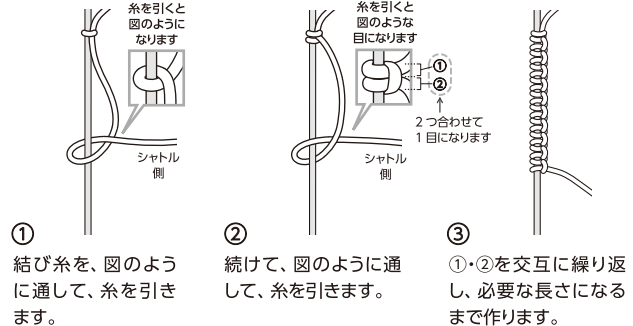


※ 左右反転して結びと、逆方向にねじれて仕上がります。



### タッチング結び

(結び糸：1本)



ビーズ  
を入れた  
作品例

たて糸に入ると(作品例は、9目ごと)



結び糸に入ると(作品例は、3目ごと)



ビーズ  
を入れた  
作品例

たて糸に入ると(作品例は、2目ごと)

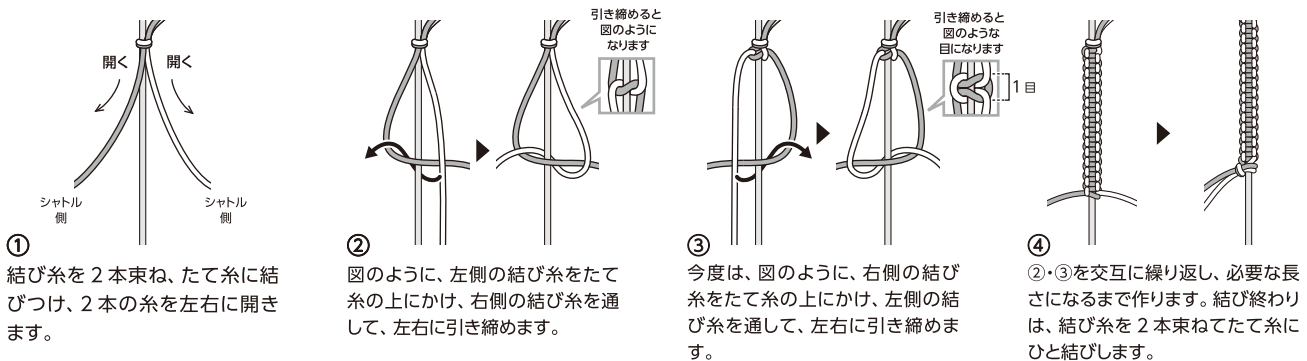


結び糸に入ると(作品例は、1目ごと)



### 平 結 び

(結び糸：2本)



ビーズ  
を入れた  
作品例

たて糸に入ると(作品例は、3目ごと)

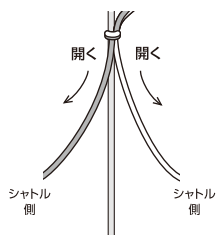


結び糸に入ると(作品例は、半目ごと)

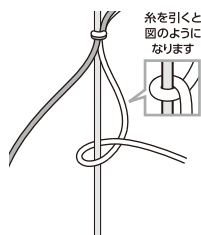


## 左右輪結び

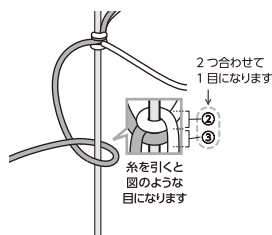
(結び糸：2本)



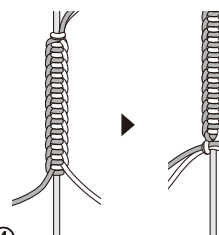
① 結び糸を2本束ね、たて糸に結びつけ、2本の糸を左右に開きます。



② 右側の結び糸を、図のように通して、輪結びをします。  
(詳しくは、左側の「輪結び」をご覧ください)



③ 左側の結び糸を、図のように通して、輪結びをします。



④ ②・③を交互に繰り返して、必要な長さになるまで作ります。結び終わりは、結び糸を2本束ねてたて糸にひと結びします。

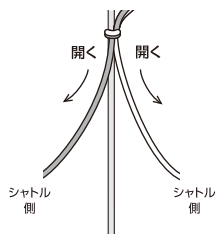
ビーズを入れた作品例

たて糸に入れると(作品例は、2目ごと)

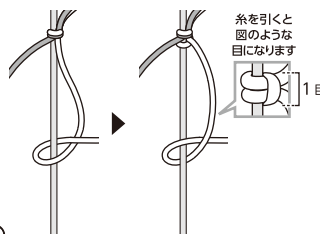
結び糸に入れると(作品例は、2目ごと)

## 左右タッチング結び

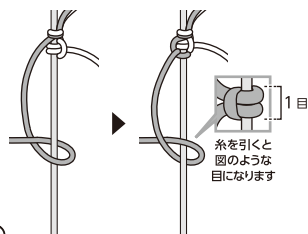
(結び糸：2本)



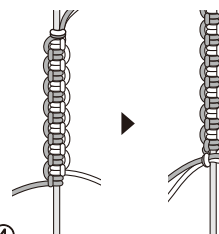
① 結び糸を2本束ね、たて糸に結びつけ、2本の糸を左右に開きます。



② 右側の結び糸を、図のように通して、タッチング結びをします。  
(詳しくは、左側の「タッチング結び」をご覧ください)



③ 左側の結び糸を、図のように通して、タッチング結びをします。



④ ②・③を交互に繰り返して、必要な長さになるまで作ります。結び終わりは、結び糸を2本束ねてたて糸にひと結びします。

ビーズを入れた作品例

たて糸に入れると(作品例は、3目ごと)

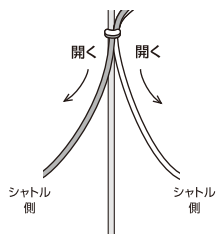
結び糸に入れると(作品例は、2目ごと)

## ねじり結び

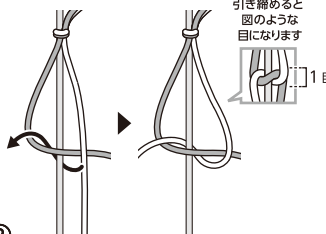
(結び糸：2本)



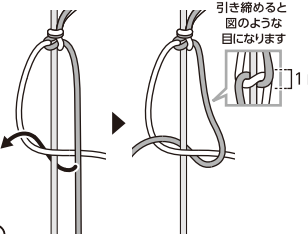
※ 左右反転して結ぶと、逆方向にねじれて仕上がります。



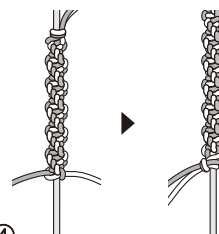
① 結び糸を2本束ね、たて糸に結びつけ、2本の糸を左右に開きます。



② 図のように、左側の結び糸をたて糸の上をかけ、右側の結び糸を通して、左右に引き締めます。



③ ②と同様に、左側の結び糸をたて糸の上をかけ、右側の結び糸を通して、左右に引き締めます。



④ ②・③を交互に繰り返して、必要な長さになるまで作ります。結び終わりは、結び糸を2本束ねてたて糸にひと結びします。

ビーズを入れた作品例

たて糸に入れると(作品例は、5目ごと)

結び糸に入れると(作品例は、5目ごと)

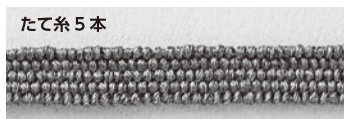
### POINT

自然にねじれていくので、常に左側の結び糸をたて糸の上にかけるように意識しましょう。

## 織り

(たて糸：2～7本)

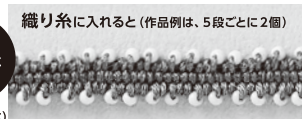
たて糸 5本



ビーズを入れた作品例

(たて糸 3本)

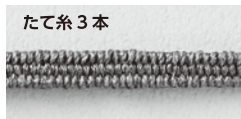
織り糸に入ると (作品例は、5段ごとに2個)



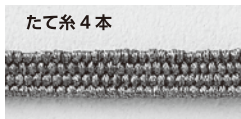
たて糸 2本



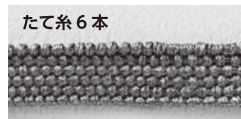
たて糸 3本



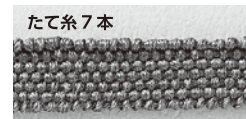
たて糸 4本



たて糸 6本



たて糸 7本



5本織りで説明していますが、織り方は全て同じです。

- ① 一番右端のたて糸に織り糸を結びつけます。
- ② シャトルの先端でたて糸を1本おきにすくって、織り糸を通し、糸を引きます。
- ③ 次の段は、前の段と互い違いになるように糸を通します。糸の折り返しの部分を持って糸を引きます。
- ④ シャトルの先端をたて糸の間に差し込んで目を整えながら、②・③を繰り返します。
- ⑤ 必要な長さになるまで織れたら、左右のどちらかの一番端のたて糸に結びつけます。

## ラダーワーク

(たて糸：2本)

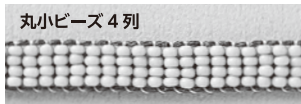
“ラダーワーク”では、ビーズステッチ用のナイロン糸を使って、たて糸の間にビーズを固定していきます。ナイロン糸はあらかじめ必要な長さに切って使用します。

ビーズ1個で説明していますが、作り方は全て同じです。

丸小ビーズ 1列

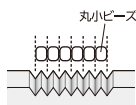


丸小ビーズ 4列



## ● たて糸の間隔の目安

くし部の山1つ分が丸小ビーズ1個分の目安になります。ビーズの種類や個数に合わせてたて糸を張ってください。



- ① たて糸をビーズ分の間隔をあけて、張ります。
- ② ビーズ針にビーズステッチ用のナイロン糸を通し、向かって左側のたて糸にかた結びでとめます。
- ③ ビーズを1個拾い、図のように糸を通します。
- ④ 次のビーズを1個拾い、図のように糸を通します。

## ● 途中でナイロン糸がなくなったら

前のナイロン糸の糸端が20cm以上残るようにし、次の糸端を20cm以上残して、右の⑧のように(※作業はプレスレットが本体にかかっている状態で行う)最後のビーズ5個ほどに通してから始めます。前の糸端は、ある程度進んでから、新たに通したビーズ5個ほどに通します。どちらの糸も、糸端は切らずに残し、⑧の工程で他の糸と同じように、たて糸の中に2cmほど通して隠し、糸を切ります。

- ⑤ 必要な長さになるまで繰り返します。
- ⑥ できあがったら、最後のビーズの中にもう一度通し、右側のたて糸に結びつけます。
- ⑦ 本体から取り外し、両端のたて糸をそれぞれ2本まとめてひと結びします。
- ⑧ 出ているナイロン糸を再びビーズ針に通します。ビーズ5個ほど通して戻り、糸端を隠すため、たて糸の中に2cmほど通してから、ナイロン糸を切ります。

④ 本商品や使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

## Bのバリエーション

## ロープ編み・三つ編み・四つ編み

Bの部分は、糸を均等に分けて編む方がきれいに仕上がりますが、三つ編みなのに糸が4本ある時などは、2本・1本・1本と分けて編んでも大丈夫です。きっちり均等に分けたい場合は、6本取の糸を分けて均等にしてください。

### ロープ編み



Aの際(きわ)でひと結びしたあと、糸を2つに分けて編みます。



Aの結び終わりの際(きわ)で、ひと結びします。結び目より下の糸を2等分にします。

※ラダーワークをした場合は、先にひと結びしているため、そのまま2等分してください。



それぞれの束を同じ方向にねじって撚りをかけます。



撚った2本を先程とは反対方向に撚り合わせ、端をひと結びします。



### 三つ編み



Aの際(きわ)は結ばず、そのまま糸を3つに分けて編みます。



aをbの上に置いて交差させます。



cをaの上に置いて交差させます。



bをcの上に置いて交差させます。

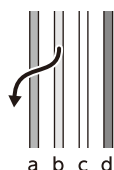


端まで繰り返して、端をひと結びします。

### 四つ編み



Aの際(きわ)は結ばず、そのまま糸を4つに分けて編みます。



bをaの上に置いて交差させます。



dをcの上に置いて交差させます。



aをdの上に置いて交差させます。



端まで繰り返して、端をひと結びします。

### 使用上の注意

- ・用途以外での使用はおやめください。
- ・本体に無理に力をかけると破損する恐れがあります。
- ・無理にスライダーを引っ張ると破損する恐れがあります。
- ・ご使用にならないときは、お子様の手の届かない所に保管してください。

▼商品に不都合な点がございましたら、お買上げ店名をご記入の上 クロバー(株)「お客様係」まで現品をお送りください。

**クロバー株式会社**  
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5  
「お客様係」TEL.(06)6976-2277  
© 2020 CLOVER